W3M

本科１期４月度

解答

Ｚ会東大進学教室

早慶大世界史

1章　中世Ⅰ

問題

【1】

解答

問1　ウ　　問2　エ　　問3　イ　　問4　エ　　問5　ウ　　問6　アッティラ
問7　イ

解説

ゲルマン人の大移動に関する問題。設問内容はすべて基本レベルなので，全問正解をめざしたい。リード文にもよく目を通して，流れをつかんでおくこと。

問1　インド＝ヨーロッパ語族のゲルマン人の原住地としては，スカンディナビア半島南部やユトランド半島が挙げられる。選択肢の中ではウのバルト海沿岸が該当する。彼らは徐々に南下して先住のケルト人を駆逐し，紀元前後頃にはライン・ドナウ両河を境にローマ帝国と接触するようになった。ローマとゲルマン人の国境線は，ライン川・ドナウ川。これは地図問題でもよく問われるので，地図上でも位置を確認しておこう。

問2　大移動以前のゲルマン人の社会を古ゲルマン社会ないし原始ゲルマン社会という。その社会構造や政治組織は，カエサルの『ガリア戦記』（前1世紀半ば）やタキトゥスの『ゲルマニア』などに記されている。『ゲルマニア』はローマの歴史家タキトゥスが98年頃に著したもの。前半はライン以東ドナウ以北の地（ゲルマニア）の社会構造をローマ社会と暗に比較しつつ論じ，後半はそこに住む個々の部族について語った民族誌である。

問3　ゲルマン社会には貴族・平民（自由民）・奴隷の身分別階層が存在した。最高機関としての民会は，王または首長が主宰する全自由民の集会であった。タキトゥスの『ゲルマニア』によれば，民会は重要事項の審議と決定の場であり，時として訴訟の場ともなったという。

問4　エの恩貸地制はローマ末期の土地制度。主君が一定の奉仕を要求する代償に，土地の用益権を貸し与えた。自由民や貴族の子弟が有力者から保護される代償に従士として忠誠を尽くす従士制と結び付き，奉仕がもっぱら軍役になり封建制となった。

問5　イベリア半島に建国したのは西ゴート人である。東ゴート王国は，ゲルマン人の一部族である東ゴート人がイタリアに建てた。東ゴート王テオドリックはビザンツ皇帝の誘いによりイタリアに侵入，オドアケルを倒して王国を建設し，首都をラヴェンナに置いた。テオドリックの死後，王国はビザンツ帝国（東ローマ帝国）のユスティニアヌスの干渉を受け，555年に滅亡した。

問6・7　アジア系騎馬遊牧民とされるフン人は，大王アッティラの下で最盛期を迎えた。451年，アッティラ率いるフン人をローマ軍が破った戦いをカタラウヌムの戦いという。ローマ側はフランク・ブルグンド・西ゴートの諸族を含む連合軍を指揮して対抗し，フン人を撃退した。

【2】

解答

問１　①　カール＝マルテル　　②　教皇領　　③　レオ３世　　問２　(ロ)　　問３　(ハ)

解説

ローマ教会とフランク王国との関係についてまとめた問題。どれも基本的な事項が問われており，全問正解をめざしたい。

問１　①・②　カール＝マルテルはメロヴィング朝の宮宰で，トゥール・ポワティエ間の戦い（732）でウマイヤ朝のイスラーム軍を破る大功を立てた。その息子のピピンはローマ教皇ザカリアスの支持を得て，メロヴィング朝を廃してカロリング朝を創始した（751）。ピピンはいわばこのお礼として，ローマ教皇を圧迫するランゴバルド人を討伐し，獲得したラヴェンナの地を教皇領として寄進したのである。

③　カールの戴冠を行ったレオ３世（位 795 ～ 816）と，ビザンツ皇帝で 726 年に聖像禁止令を出したレオン３世（位 717 ～ 41）は別人である。当たり前のことではあるが，注意しておこう。

問２　これはすぐに見抜いてほしい。コンスタンティノープルの名は，この都を建設した大帝コンスタンティヌスに因んでいるのだから。

問３　正解がわかりやすい問題だが，その他の選択肢も吟味しておこう。

(イ)　カール１世（大帝）はカロリング朝の王であるから誤り。

(ロ)　モンゴル民族の勃興は 13 世紀のことだから時代的にずれており，誤り。

(ニ)　カール１世の死後，カロリング朝の王位はその息子ルートヴィヒ１世が継いだが，彼が死ぬと，ルートヴィヒの３人の息子（つまりカール１世の孫）が相続領をめぐって争った。ヴェルダン条約（843）では３人の間で領土相続の調停を行ったが，そのうちの１人ロタールが死ぬと，その遺領を他の２人で分割・相続することを決めたのがメルセン条約（870）である。よって，問題文の「彼の死と同時に」という部分が誤りとなる。

【3】

解答

問Ａ　4　　問Ｂ　1　　問Ｃ　4　　問Ｄ　4　　問Ｅ　3　　問Ｆ　1　　問Ｇ　4

解説

「辺境」をテーマに古代エジプトから中世の東西カトリック教会の分離までを取り上げた問題。問Ｄや問Ｇはやや難しいかもしれないが，それ以外の問題については正解しておきたい。

問Ａ　古代オリエントの遊牧民族であるヒクソスは，エジプト中王国の滅亡後，シリア方面からエジプトに侵入して同地を支配した。前 16 世紀半ばに衰退し，新王国（第 18 ～ 20 王朝）によって追放され，それ以降はエジプト支配を行っていない。

問Ｂ　ヘレニズム時代の数学・物理学者のアルキメデス（前 287 頃～前 212）は，ギリシアの植民市であったシチリア島シラクサ出身で，アレクサンドリアのムセイオンなどで学んだ。浮体の原理の発見などで知られる。

問C　アレクサンドロス大王（位前 336 ～前 323）の死後，ディアドコイと称する後継者の争いが起こった。前 301 年のイプソスの戦いを経て，アレクサンドロス大王の帝国はアンティゴノス朝マケドニア・セレウコス朝シリア・プトレマイオス朝エジプトに大きく三分された。

問D　難しい。解けなくても気にしないこと。すぐに年代の見当がつく選択肢と，そうでないものとが混ざっているので，わかるものを手がかりに並べ替えを進めたい。属州成立の順番は以下のとおり。

d　サルディニア：前 3 世紀後半。第 1 回ポエニ戦争の結果，ローマの属州となった。

a　アフリカ：前 146 年。第 3 回ポエニ戦争の結果，カルタゴが滅亡して属州となった。

c　ガリア：前 2 世紀末。ガリア南部の一地域を最初の属州ガリアとした。

b　エジプト：前 30 年。プトレマイオス朝エジプトの滅亡に伴い属州となった。

e　ユダヤ：後 6 年。アウグストゥス帝の治世下で属州となった。

問E　西ゴート人はアラリック王（位 395 ～ 410）に率いられ，410 年，ローマ市を略奪した。ローマ末期の教父アウグスティヌスは，この西ゴート人のローマ侵入を契機に『神の国（神国論）』を著した。

問F　フランク国王カール大帝（位 768 ～ 814）は，カロリング＝ルネサンスの中心地であったアーヘンで没した。ザクセン朝のオットー 1 世（位 936 ～ 973）以降，歴代のドイツ国王はアーヘンの大聖堂で戴冠式を行った。

問G　年代を知っていたかどうかで決まる問題。マケドニア朝は 867 年から 1057 年まで続いた王朝。キリスト教の東西両教会が相互破門し，完全分裂したのは 1054 年である。

【4】

解答

問 1　あ　メロヴィング　　い　宮宰（マヨル＝ドムス）　　う　カロリング

　　え　トゥール・ポワティエ間　　お　カール大帝　　か　アヴァール　　き　800

問 2　クローヴィスは多くのゲルマン人に受容されていたアリウス派ではなく，ローマ帝国の国教であったアタナシウス派キリスト教に改宗したため。(65 字)

問 3　ラヴェンナ（地方）

問 4　(1)　聖像禁止令

　　(2)　ローマ教会ではゲルマン人への布教に聖像使用を認めていたため。(30 字)

問 5　皇帝がギリシア正教会の首長の任免権を掌握し，聖俗両権を有していた。(33 字)

解説

フランク王国の発展とローマ教会の結び付きについての問題。語句問題は基本的な内容なので，論述問題が合否を分けることになる。論述問題が出題される早大法・商学部，慶大経済・商学部などの志望者は対策が必要となるので要注意。ただ，必要以上に論述問題を恐れる必要はない。論述問題は長い問題であれ，短い問題であれ，○か×での判定ではない。部分点をいかに稼ぐかがポイントとなる。

問 1　あ　フランク人の一派サリ族出身で，メロヴィング家のクローヴィスが他部族を統一し，メロヴィング朝フランク王国を建てた。

い　フランク王国の行政・財政面の長である宮宰（マヨル＝ドムス）は，王と同様に世襲された。

う　正解はカロリング。のちに小ピピンは教皇ザカリアス（位 741 ～ 52）の支持の下，メロヴィング朝を廃し，カロリング朝を創始した。

え　正解はトゥール・ポワティエ間。カール＝マルテルは，イベリア半島で西ゴート王国を滅ぼしてピレネー山脈を越えて侵入してきたウマイヤ朝を破った。このことはイスラーム教徒の侵略からキリスト教世界を守り，ローマ教皇とフランク王国（カロリング家）が提携する要因となった。

お　カール大帝は北イタリアのランゴバルド王国を滅ぼしたほか，北ドイツのザクセン人を征服し，中央ヨーロッパから侵入してきたモンゴル系遊牧民のアヴァール人も撃退，さらにイベリア半島の後ウマイヤ朝に対しても遠征を行うなど，積極的な対外姿勢をとった。

か　アヴァール人はカール大帝に敗れた後，衰退してスラヴ人やマジャール人に同化していった。

き　正解は 800。カールの戴冠（800）は頻出年代なので，必ず覚えておきたい。

問２　論述では字数にも注意しよう。「程度」とあるときは，字数の前後 20％（今回の場合〈60 字〉だと 48 字～ 72 字）に収めたい。この範囲より少なくても多くても，大きく減点，場合によっては採点すらされないと考えたほうがよいだろう。ゲルマン人国家は多く建国されたが，その人口割合を見ると，支配者のゲルマン人は数％だったのに対し，90％以上は先住していたローマ人が占めていたため，統治が困難に陥ることが多かった。クローヴィスはその妻がアタナシウス派キリスト教徒だったこともあり，496 年，3000 人の従者とともにランス司教から洗礼を受けて改宗した。これにより，その多くがアタナシウス派を信仰するローマ人との軋轢が減り，統治領内において良好な関係の構築が可能となった。

問３　正解はラヴェンナ地方。ピピンが 756 年にランゴバルドへの遠征で得たラヴェンナ地方を教皇ステファヌス３世（位 752 ～ 57）へ献上したことが教皇領の始まりとなった。ラヴェンナにあるサン＝ヴィターレ聖堂は東ローマ（ビザンツ）皇帝ユスティニアヌス（位 527 ～ 65）が建設したビザンツ式建築物として有名。ここにあるユスティニアヌスと皇后テオドラが描かれたモザイク壁画も有名であり，ラヴェンナはモザイクの町として名高いことも文化史に絡めて覚えておくとよいだろう。

問４　⑴　正解は聖像禁止令。イサウリア朝のレオン３世（位 717 ～ 41）はコンスタンティノープルを包囲したイスラーム軍（ウマイヤ朝）を撃退した皇帝としても有名。彼は偶像崇拝を厳しく否定するイスラーム教に対抗する目的もあり，聖像（イコン）を用いた布教活動を 726 年に禁止した。しかし，この禁令は 843 年には撤回されている。

⑵　ローマ教会は，教皇グレゴリウス１世（位 590 ～ 604）がゲルマン人に対する布教を進めた。例えば，６世紀末にはブリタニアのアングロ＝サクソン人に対しても布教活動を行い，その改宗に成功している。これらの布教に当たりローマ教会は偶像の使用を容認したが，それはゲルマン諸族が偶像崇拝に馴染みがあったことが大きく関係していた。しかしビザンツ帝国によって聖像禁止令が発布され，これにローマ教会は布教活動に支障を来すとして強く反発した。このような経緯で，東西教会の対立は決定的なものとなったのである。

問５　ビザンツ帝国では皇帝が政治・宗教両面の最高権力を保持し，コンスタンティノープル総主教（総大主教）の任命権を掌握していたことがポイント。